

付着生物(ユウレイボヤ等)ラーバ情報

平成25年11月7日に陸奥湾2定点で第3回付着生物(ユウレイボヤ等)ラーバ調査を行ったので、その結果をお知らせします。

1 ラーバの出現数

ユウレイボヤラーバの出現数の推移は図1、各地の出現数は図2のとおりです。久栗坂沖で2.8個/トン、川内沖では0個/トンでした。

その他の付着生物のラーバ等の出現数は表1のとおりで、ザラボヤ、ネンエキボヤ、オペリア類(通称「クサ」)は見られませんでした。

表1 その他付着生物のラーバ等の出現数

単位:個/トン				
調査地点	調査月日	ザラボヤ	ネンエキボヤ	オペリア類
久栗坂沖	H25.11.7	0.0	0.0	0.0
川内沖	H25.11.7	0.0	0.0	0.0

※久栗坂・川内沖は実験漁場内

2 水温の状況

各ブイの11月7日の平均水温は、表2のとおりです。

表2 各ブイの中層における日平均水温(11/7)

観測地点	水温(°C)	観測地点	水温(°C)	観測地点	水温(°C)
平館ブイ	17.1	東田沢ブイ	-	横浜ブイ	14.5
蓬田ブイ	-	清水川ブイ	-	浜奥内ブイ	14.5
奥内ブイ	-	野辺地ブイ	-	川内ブイ	14.8
青森ブイ	16.2	東湾ブイ	15.4	脇野沢ブイ	16.0
浦田ブイ	-				

※奥内、浦田、野辺地、浜奥内は10m層、それ以外は15m層の値

3 今後の見込み

久栗坂沖でユウレイボヤラーバが見られますが、出現数は少ない状況となっています。

今後のラーバの出現動向については、次回(11月下旬発行予定)の情報を参考にしてください。

4 参考(トピックス)

【ネンエキボヤ】

ホタテガイ養殖籠(パールネット)に付着し、目詰まりを起こす「群体ボヤ」という生き物がありますが、その中でも特に問題となっているのはネンエキボヤという種類で、これまでの研究で以下のことが分かっています。

- ・マボヤやユウレイボヤと異なり、ネンエキボヤの大きさは約0.8mmと非常に小さい(写真1)。
- ・浮遊幼生(ラーバ)の大きさは約1.5mmで特徴的な形をしている(写真2)。

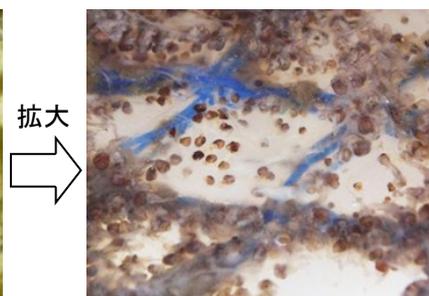


写真1 パールネットに付着したネンエキボヤ
(1個体の大きさは約0.8mm)

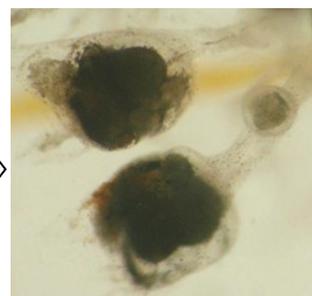


写真2 ネンエキボヤの浮遊幼生
(大きさは約1.5mm)

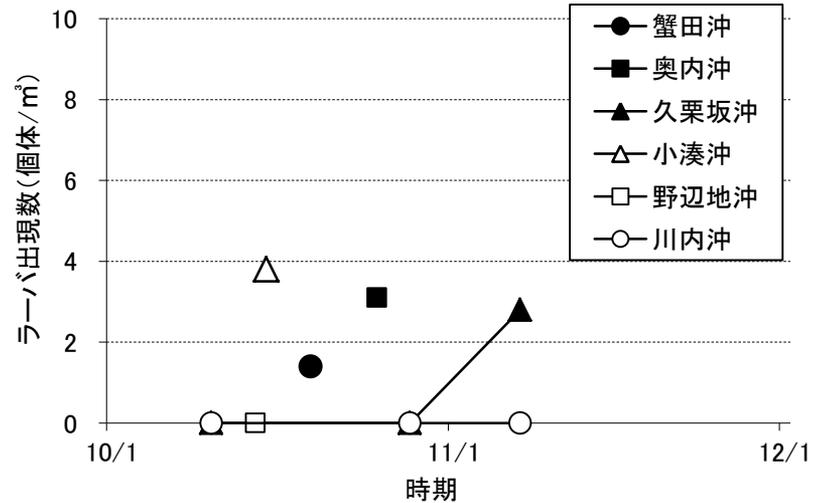


図1 ユウレイボヤラーバ出現数の推移

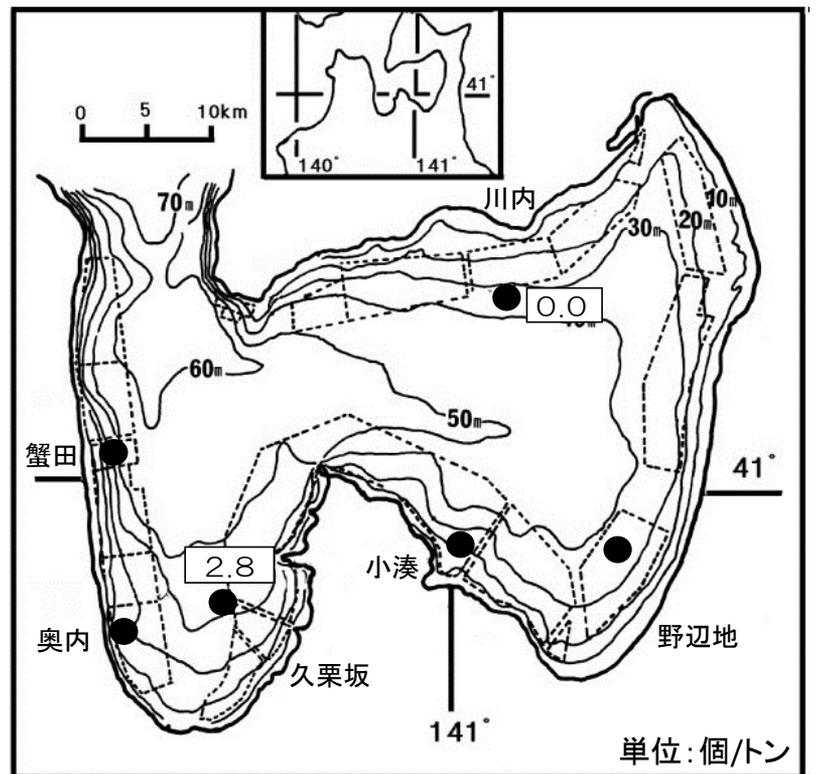


図2 調査地点別のユウレイボヤラーバ出現数

